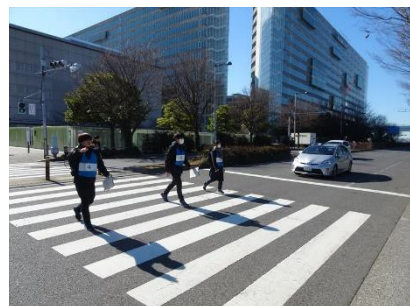


2. H29年度プレ検証結果

実施結果

支援必要シーンでは90%前後の支援通知は確保
また支援不要シーンも95%以上の精度は確保

(i) 支援が必要な場面 (5シーン)



単路横断



見通し外交差点



交差点右折 (信号有)



交差点左折 (信号有)



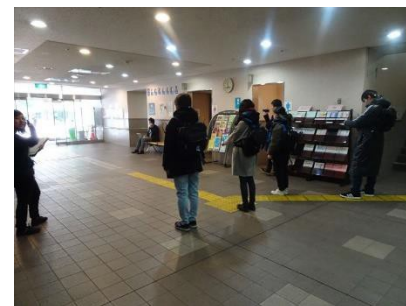
交差点右折 (信号無)



交差点左折 (信号無)



車両内



建物内



歩道橋上



歩道



歩道のない道路



高架上下

3.H30年度活動成果報告

目標

- **一般モニタを対象とした実証**により、**実交通環境下での歩行者事故低減**に対する効果を評価し、**実用化に向けた課題**を得る。

- モニターに正しく情報が伝えられているか？
- 行動変容に変化はあったか？
- 世代別の違いはあるか？
- 普及に向けた将来の期待・課題は何か？

2つの実験を実施した。

①テストコースを用いた検証【定量】

1)公道では再現困難な実験を実施。歩車の行動変容を定量的に把握

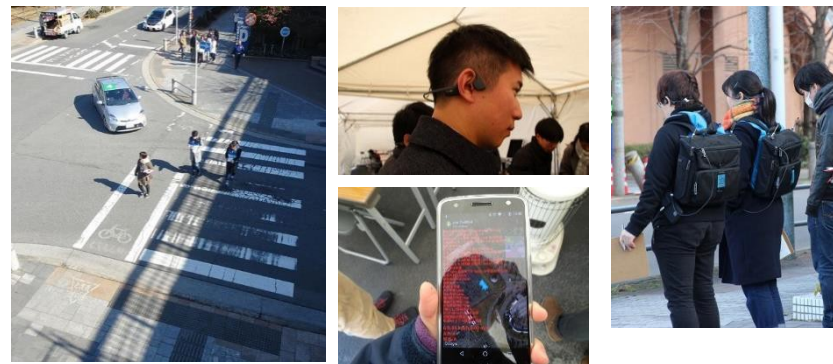
- 「1.単路横断（50km/h、30km/h）」
- 「2.見通し外交差点(30km/h)」

2) 経産省(JARI)実験へのパラメータ提供のためのデータ取得

『交通事故低減詳細効果見積もりのためのシミュレーション技術の開発及び検証実証』

②実環境（お台場地区）検証【定性】

公道にて支援が必要なシーンについてモニター調査により実効性等を検証



3.H30年度活動成果報告（1）テストコース検証結果

■車両モニター、歩行者モニター各々に対して「1 単路横断」と「2 見通し外交差点」を体験頂き、その時の行動変容を分析。

①歩行者：高齢者・非高齢者・子供（各16サンプル）

②車両：高齢者・非高齢者（各16サンプル）

で、通知有り、通知無し の違いを被験頂き、ログデータ分析を実施



■対象シーン

- ・歩行者と車両が以下のシーンで接近する場面を演出し、行動変容を把握
- ・安全には十分配慮（倫理審査委員会の設置）

①歩行者の単路横断（50・30km/h）



②見通し外交差点出会い頭（30km/h）



■取得パラメータ

①歩行者：年齢・自由横断速度・首振り確認確率・横断速度・行動変容

②車両：年齢・車両速度・アクセルオフ/ブレーキタイミング・安全確認の確率

3.H30年度活動成果報告 (1) テストコース検証結果

- ①歩行者の単路横断 (30km/h) 歩行者側検証
- ②見通し外交差点出会い頭 (30km/h) 歩行者側検証
- ③歩行者の単路横断 (50km/h) 車両 (運転者) 側検証

撮影動画を放映します

